

2000年度九州支部講演会の報告

2001年3月3日(土)に福岡市のTNC放送会館で2000年度九州支部講演会を開催した。プログラムは以下のとおりで、局地的な現象から地球規模の現象を対象とした数値シミュレーションや解析等による研究結果が14題発表された。また、内嶋善兵衛宮崎公立大学学長には「気候変動と環境～地球環境と食料生産～」と題する特別講演をしていただいた。同講演は地球温暖化が農業に及ぼす影響を中心に、気候変動による生物システムへの影響とその脆弱性に関するもので、人類が地球環境に与えている負荷に対して警鐘を鳴らす内容であった。今回の講演会では若手による発表が目立ち、参加者が64名となった。次回の講演会もより多くの会員による幅広い分野の発表を期待したい。

(九州支部事務局 諸岡 浩子)

2000年度九州支部講演会プログラム

1. 強安定時の大気境界層の流れ構造と乱流特性
大屋裕二・鳥谷 隆・内田孝紀・杉谷賢一郎 (九州大学応用力学研究所)
 2. 内部境界層と鉛直拡散による圏界面波動の減衰特性
重久陽亮 (気象大学校)
 3. 風のシアー高度と雲物理過程がマルチセル型ストームの構造に及ぼす影響
水野太史・川野哲也 (九州大学大学院理学研究院)
 4. 三宅島の噴煙到達高度に対する水蒸気の潜熱の効果
水谷文彦・中島健介 (九州大学大学院理学研究院)
 5. 有明海沿岸部の局地循環
大河内康正 (八代工業高等専門学校土木建築工学科)
 6. カルマンフィルターを用いた「視程に関するTAF-S ガイダンス」の開発
用貝敏郎 (鹿児島航空測候所)
 7. 金星大気大循環の数値シミュレーションについて
宮本朋幸*・和方吉信** (*九州大学総合理工学研究科, **九州大学応用力学研究所)
 8. 両半球間にみられる対流圏界面における質量交換の相違
児玉昌宏 (九州大学大学院理学研究院)
 9. GCM 中の平均東西風におけるレイノルズストレスについて
山本大介・宮原三郎・三好勉信 (九州大学大学院理学研究院)
 10. ヨーロッパ・大西洋域のブロッキング形成・維持過程における高・低周波力学の役割
今林隆史・伊藤久徳 (九州大学大学院理学研究院)
 11. 北半球オゾン減少の解析：ヨーロッパ上空のオゾン減少
岩尾航希・廣岡俊彦 (九州大学大学院理学研究院)
 12. 北大西洋振動 (NAO) と北欧の降水の関係について
守田 治・河内 悠・稲丸貴志 (九州大学大学院理学研究院)
 13. 中緯度大規模変動パターンに関する考察
佐藤暢晃・伊藤久徳 (九州大学大学院理学研究院)
 14. 西太平洋域における熱帯総観規模擾乱とその台風発生との関係
北野昌幸・伊藤久徳 (九州大学大学院理学研究院)
- 特別講演「気候変動と環境～地球環境と食料生産～」
内嶋善兵衛 (宮崎公立大学学長)